C－78 日本人青年女子の肌色の季節の変化について 第5報 山形新潟地区における

東京家政大家政　○木曽山かね　山形大教育　小関きみ　新潟大教育
山崎敏子　東京家政大附属女高　鈴木朋次郎　東京家政大家政　雲田直子

目的　本研究は皮膚の色調と衣服の色との関係を考えるための、系統的な基礎資料を得る目的の基礎実験である。先に第21回総会において東京地区、名古屋地区、第22回総会において北海道札幌地区、第23回総会において岡山地区の色調を報告したが、今回は山形、新潟地区における四季の皮膚の色を測定し、考察検討を行った。

方法　測定の方法は視感測定法で行った。測定月日は春は4月初旬、夏は6月上旬秋は10月下旬、冬は2月上旬とし、気温は春は22°C内外、夏は24°C内外、秋は19°C内外、冬5°C内外、湿度は65%内外であった。皮膚面の照度は450Lux内外の間で測定を行った。人員は山形大教育学部学生及び山形女専学生40名と、新潟大教育学部高田分校学生36名の計76名である。被験者の年令は18・19・20才である。被験者の皮膚の状況は化粧をしない健康なる皮膚を測定した。被験者の着衣状況は夏期は半袖、他の季節は長袖を着用していた。また家庭の職業は、農業、漁業を含め31.57%であり、商業、会社員、公務員を含め、68.40%であった。

結果　山形、新潟地区をまとめて総体的に云えることは、両地区の色調の出現の傾向が近似していることで、その色調はオレンヂ系統の5.0YRに主流がみられた。新潟地区には、7.5YRの系統が30%程度みられたが、山形地区のその色調は僅少であった。両地区とも、他の地区より5.0YRに彩度の高い色調が多くみうけられ、血色のよい色調が多い。